



# 参院委で存廃審議

## 財金委員長検討 県内機関を聴取

2005  
11/17  
沖繩  
タイムズ

沖繩振興開発金融公庫の存続問題で、県内関係機関から意見を聴取した参院財政金融委員会の山本孝史委員長（民主）らは十六日午後、県庁で会見し、「各委員はそれぞれので取り組むが、委  
.....  
沖繩公庫の存続問題で委員会審議の必要性を示した参院財政金融委員会の会見  
県庁記者会見室

員会としても必要があれば（関係者に）来てもらい、国会で審議していくことになる」と述べ、委員会で適宜、検討する考えを明らかにした。政府系金融機関の組織改革は、今月末に政府方針が策定される見通したが、国会への法案提出の時期や内容は不透明な情勢。同委員会は今後、政府の改革の流れを見ながら、沖繩公庫問題についても検討課題にする。一方、存続の是非について山本委員長は「沖繩の特殊事情をよく考慮してほしい」という意見が一番強く、どの団体も沖繩公庫の機能は残すという意見だった。ただ、個人的には機能を残すことと組織を残すことは違う」と、沖繩公庫の現行組織を残すことに慎重な

考えを示した。これに対し、別の委員からは「沖繩公庫の資金には、復帰前の県民資産として二百六十億円が引き継がれており、これも含めて本土組織と統合するのはおかしい（糸数慶子委員・無）、「天下りの温床となっている沖繩公庫の東京本部は考え直す必要があるが、沖繩の特殊性にうまく対応してきた組織を壊す必要はなく、存続させた方がいい（桜井充委員・民主）など、組織存続の意見も挙がった。